

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	科学技術の指標開発に係る国際的取組の推進	事業開始年度	平成12年度	作成責任者		
担当部局庁	科学技術・学術政策局	担当課室	調査調整課	調査調整課長 行松 泰弘		
会計区分	一般会計	上位政策	科学技術の国際活動の戦略的推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	—			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	科学技術指標の国際的基準を定めるイニシアチブをとり、我が国の貢献を明確にするとともに、国の科学技術政策の立案に資する指標の整備を進める。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	経済協力開発機構(OECD)科学技術政策委員会(CSTP)の下に設けられている科学技術指標専門家作業部会(NESTI)による科学技術指標の国際基準の制定等の活動に対して、任意拠出金を活用して支援している。					
実施状況	OECD/NESTIにおいては、我が国からの拠出金等により、各国が科学技術統計を取る際のマニュアルの策定、科学技術・イノベーションに関する調査や国際比較の検討等を実施している。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	27	30	26	24	—
	執行額	27	30	26	—	—
	執行率	100%	100%	100%	—	—
	総事業費(執行ベース)	27	30	26	—	—
自己点検	支出先・使途の把握水準・状況	OECDより拠出金の財務報告を書面で受け、拠出金の使途について確認している。				
	見直しの余地	諸外国では、イノベーションの創出までを視野に入れた科学技術・イノベーション政策が重視され、そのための指標や評価手法の開発、統計の体系的な整備といった科学技術・イノベーション政策の科学が進められている。また我が国でも、「我が国の中長期を展望した科学技術の総合戦略に向けて」(平成21年12月25日科学技術・学術審議会基本計画特別委員会)において、科学的な観点に基づいて評価・分析等を行うことの重要性が謳われるなどしている。このような中、OECDにおける科学技術・イノベーションに関する国際比較可能な指標の整備に向けた活動は、より重要なものとなっており、今後、OECD事務局等との連絡をより密に行い、連携の強化を図っていくこととする。				
予算監視の・所効見率化	1. 事業評価の観点:この事業は、各国が科学技術統計を取る際のマニュアルの策定等を行っている科学技術指標専門家会合(NESTI)の活動を支援するため、経済協力開発機構(OECD)に対し拠出金を拠出する長期継続事業である。 2. 所見:長期継続事業であり、科学技術指標等の科学技術・学術に関する内外の動向に係る事業は本事業以外にも存在していることから、いったん廃止し整理統合すべきである。					
補記						

**文部科学省
26百万円**

科学技術指標専門家作業部会(NESTI)による科学技術指標の国際基準の制定等の活動に対して、任意拠出金により支援する。

【経済協力機構拠出金】

**OECD/NESTI
26百万円**

科学技術指標の国際基準の制定等の活動

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途 〔「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出さ れている者につ いて記載する。 使途と費目の 双方で実情が 分かるように記 載）	A.経済協力開発機構			E.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	経済協力機 構拠出金	OECD/NESTIによる科学技術指標 の国際基準の制定等の活動に活	26			
	計		26	計		0
B.	B.			F.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
C.	C.			G.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
D.	D.			H.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	計		0	計		0